研究所レポート

２０１９年１月　VOL.54

いつでも　どこでも
誰でもできる平和教育を

～ すべての子どもに、問題を平和的に解決する力を ～

静岡県教職員組合立教育研究所
国際連帯と平和教育研究委員会

「国際連帯と平和教育研究委員会」では、ものごとを多面的に捉え平和的に解決する力を子どもたちに育てるために、授業や様々な教科領域において平和教育の視点をとりいれた実践を行い、所員（学校現場の教職員）の報告をもとに研究をすすめています。

今回の研究所レポートでは、所員の実践の一つを紹介します。実践テーマは、「**絵本の鑑賞を通して、戦争反対への思いを強くする　～色や形から作者の思いを感じ取り、深い読み取りにつなげる子どもをめざして～**」です。

実践は、所員自身が図画工作科の鑑賞において、反戦への願いや平和をテーマにした絵本の挿絵について作者の想いを読み取る活動を行う授業を行いました。

実践事例　図画工作科　鑑賞

1　実践への思い・考え

私は、小学校３年生の担任をしている。学級の子どもたちは、元気がよく仲良く学校生活を送っている。ただ、思いをストレートに発するために、言葉がきつい子たちが多くおり、友だちに対して「死ね」と簡単に発する子もいる。また、子どもたちの中には戦車や銃などに興味をもつ子もおり、かっこいい対象となっていて、過去にあった戦争と結びついていないようである。

今回私は絵本の読み聞かせをとおして、戦争反対への思いを強くする実践を行いたいと思った。反戦の絵本は世の中に数多く出回っているが、その中であえて、抽象画の絵本を扱うことにした。絵本の読み聞かせは、読み手の口調に引き込まれてしまい、挿絵の印象が薄まってしまうことがある。挿絵は作者の思いが十分伝わるものであるために、文章との相互関係の中で、深い読み取りにつながる実践をと考えた。挿絵から作者の戦争への思いを感じ、戦争反対への思いを強くもつ子どもたちを育てていきたいと考えた。

2　実践の概要

（１）ねらいと授業の流れ

①ねらい

挿絵について作者の想いを読み取る活動後に読み聞かせを行うことで、子どもたちは挿絵に注目しながら文章を聞き、挿絵に込められた作者の想いを深く感じ取ることができる。そして絵本の伝えたいメッセージを目と耳から、思う存分に味わうことができる。

②流れ

・「挿絵」に込められた作者の想いを感じ取ること。
「色」「筆のタッチ」「形」などに注目しながら、それぞれにある「意味」を感じ取ること。

・「文」を付け加えることで、その挿絵に至った「背景」を理解すること。
「背景」を理解したうえで、改めて作者の想いを感じ取るようすること。

（2）授業結果

①挿絵だけを見せて、作者の想いを考える。

子どもたちの反応

・わかめ　・海藻　・サンゴ礁　・何かわからない
・炎　・火　・熱そう　・人の血　・モヤモヤなど

結果は、見た目の形や色にとらわれながらの想像なので、身近に存在するものに考えが及ぶ。心象表現とは捉えることができていない。

・ゾウ　・迷路　・雨粒　・何かわからない
・排水溝　・海　・水　・すごく寒そう　など

結果は１枚目と同様に、既存するものに繋げようとする。
ただ、１枚目より抽象的な表現のために何を表しているのか理解がすすまず、線や色から想像していた。

◇結果として抽象的な挿絵の表現は、背景を理解していなので、作者の想いに至っていない。

②読み聞かせを行う。

戦争について感じた事（子どもたちのあらわれ）

- 「悔しくても、今できることは生き抜くこと」これは、私の母が終戦の日に、戦争で生き抜いた母のおばあちゃんから聞いたことです。読み聞かせで、私は心にすごく重い鉄の塊が落ちてきたみたいです。
- 誰にも治せない悲しみ。
- 戦争にはどれだけ、怒りや悲しみがあるのかがわかった。
- 戦争は危険で、家族が死んだら知らせを受けた人は怒ったり悲しんだりすること。

挿絵に込められた想い（子どもたちのあらわれ）

- 大切な人を失った苦しみや悲しみがわかった。
- 弟の怒りがすごく大きい。復讐の怒りが大きい。お母さんの大きな悲しみがわかった。
- 心の中の怒りや悲しみだと思った。作者は気持ちを伝えようとしたんだなと思った。
- 家族のために頑張ってきた兄の敵を本気でとろうとする弟の死に対するお母さんのこぼれる涙。それはかわいそうと思いました。

図工の鑑賞の見方

- 悲しいから青。
- 悲しいことばかりあって、複雑な残酷な絵で悲しかった。
- ダイナミックな表現で大きな怒りと悲しみ。
- １つの絵の中にいろいろな発想があることがわかった。
- 心の気持ちを表現していたことがわかった。

（3）結果

読み聞かせ後は、挿絵の見方が大きく変化した。また、形や色の意味を感じ取った子どもたちが多かった。「ああ、なるほど」「わかった」という挿絵に対して理解した反応が多かった。

3　成果

・　挿絵に注目しながら、読み聞かせに耳を傾けているので、作者が伝えたい内容をより強く感じ取れた子どもたちが増えている。その中で、自分の家族のことを振り返る子どもや戦争の怖さについて考える子どもがいた。

・　絵本という題材を用いたことで、直接的な戦争に関する表現はなく、抽象的な挿絵であるため、子どもたちに対しじんわりとした感覚で戦争に対する思いを広げることができ、結果としてゆっくりと反戦にについて考えていく場となった。

研究協議より

授業実践者より

・　このような実践を継続していかなければ、その場限りの感情や考えで終わってしまうことが考えられる。また、継続する際に選定する絵本をどのようにしていくのかをじっくりと考えなくてはならない。

・　選定した本によっては、被害感情だけが突出してしまうことも考えられる。俯瞰の視点をもって、平和について考えられる題材を選定していく必要性があると考える。

所員より

・　反戦への思い、平和への願いは日々の積み重ねが大切だと感じた。

・　反戦というと教員の押し付けが強くなりがちだが、図画工作科で絵の鑑賞をとおして、戦争について考えることは、価値の押し付けにならず、多様な意見が出され、オープンエンドの形で終わることができるんだなと思った。

・　絵本を使っていることが、小学校の子どもたちにはよかったのではないか。反戦平和の教育も、子どもたちの実態に応じた教材を選択することが必要だと改めて思った。

国際連帯と平和教育研究委員会
（2018年度）

共同研究者
伊藤　恭彦
（名古屋市立大学教授）

所　　員
西井　知美（静清教組）
池谷　崇仁（浜松教組）
小菅　知章（賀茂支部）
小林　義幸（東豆支部）
村松さくら（沼津支部）
馬場　誠也（富士支部）
寺島健太郎（志太支部）

事　務　局
大石　茂生
小野　佳貴
赤堀　真人

争いごとを平和的に解決できる力をもった子どもたちを育てるために
～いつでも、どこでも、誰でもできる平和教育実践記録集～
編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和教育研究委員会」
〒420-0856 静岡市葵区駿府町１番 12 号　静岡県教育会館
発　行　者／教育研究所運営委員長　鈴木伸昭
発　行　日／ 2019 年１月

静岡県教育事業団体連絡会
教育と生活をサポート
一般財団法人 静岡県教職員互助組合
静岡県教職員生活協同組合
静岡県学校生活協同組合連合会
一般社団法人 静岡県出版文化会
公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部
株式会社 静岡教育出版社